

オウトウ平棚仕立て栽培法の検討

福島県果樹試験場栽培部
平成15年研究成績書

1 部門名

果樹－オウトウ－整枝・剪定
分類コード 04－08－08000000

2 担当者

相原隆志・木幡栄子

3 要旨

オウトウの作業性向上及び収量と品質の安定を目的として、「正光錦」の平棚仕立て栽培について検討した(平成15年時の樹齢は14年生)。

高さ180cmの棚上に二本主枝で整枝し、主枝の両側に側枝を肋骨状に配置した。また、棚上には高さ300cmの簡易トンネルを設置した。

オウトウを平棚仕立てで栽培することによって、樹高が低く作業性が良い(収穫作業にかかる時間は慣行の約7割)こと、生産性や果実品質が高い(平均収量1.0t/10a、平均果重7.9g、平均RM示度20.7)ことが認められた。

栽培上のポイントとしては以下の点が挙げられる。

- (1) 徒長枝の発生を抑えるため、満開後45～50日頃及び同100日頃に夏季せん定(摘心)を行う。
- (2) 成熟期がそろい、収穫適期が短くなるため、面積が大きい場合は品種の分散が必要である。
- (3) 側枝本数が多いと着色が劣るため、側枝間隔は40～45cm程度とする。
- (4) 3mを超えた側枝は計画的に更新枝を準備し、結果枝の若返りを図る。

4 その他の資料等

なし